

お盆需要期の連続出荷が可能な「飛系菊1号、2号、3号、4号」の特徴	
【要約】「飛驒黄金」から選抜した開花期が異なる「飛系菊1号、2号、3号、4号」を用いると、7月中旬から8月中旬までの長期連続出荷が可能となり、市場が求めるお盆需要に対応することができる。	
中山間農業研究所 施設園芸部	【連絡先】 0577-73-2029

【背景・ねらい】

飛驒地域で栽培されている黄色輪ギク「飛驒黄金」は、栽培環境により開花時期が前後するため出荷時期が変動することが多く、確実な出荷体系の確立が市場から要望されている。

そこで、「飛驒黄金」の中から、開花期が異なる系統を選抜し、連続出荷が可能な栽培体系を構築する。

【成果の内容・特徴】

- 1 「飛驒黄金」と同品質な黄色輪ギクで、開花時期のみが異なる個体を選抜し、「飛系菊1号、2号、3号、4号」を育成した。特徴は以下のとおりである（表1、図1）。
- 2 「飛系菊1号」は、7月中旬から7月末が収穫日で、脇芽数はやや少ない。
- 3 「飛系菊2号」は、7月下旬から8月上旬が収穫日で、草丈は長く、脇芽数は多い。
- 4 「飛系菊3号」は、7月中旬から7月下旬が収穫日で、草丈は短く、脇芽数は少ない。
- 5 「飛系菊4号」は、7月下旬から8月中旬が収穫日で、節数が多く草丈が長い。
- 6 「飛系菊1号、2号、3号、4号」を栽培環境に応じて選択することで連続出荷ができ、市場が求めるお盆需要に対応することが可能である（図1）。

【成果の活用・留意点】

- 1 「飛系菊1号～4号」は、「飛驒黄金」として市場出荷が可能である（図2）。
- 2 本データは、飛驒市古川町、標高493mでの結果であり、実際に栽培する環境により開花日等は変動することが予想される。新系統の導入にあたっては、試験的に栽培し開花期を把握する必要がある。そのうえで、「飛系菊1号～4号」の中から必要な系統を選択、または組み合わせることで、栽培地域に適した安定出荷が可能な体系を組み立てるとよい。

【具体的データ】

表1 各系統の収穫日及び生育調査結果（平成29年度～令和元年度調査）（n=75）

供試系統	収穫期 (月/日)	節数 (節)	草丈 (cm)	花首長 (cm)	脇芽数 (本)
飛系菊1号	7/16～7/30	30.6	66.8	2.8	6.6
飛系菊2号	7/21～8/7	31.7	72.4	3.3	14.9
飛系菊3号	7/11～7/23	30.1	58.7	3.0	6.4
飛系菊4号	7/28～8/19	39.8	76.8	3.4	12.2

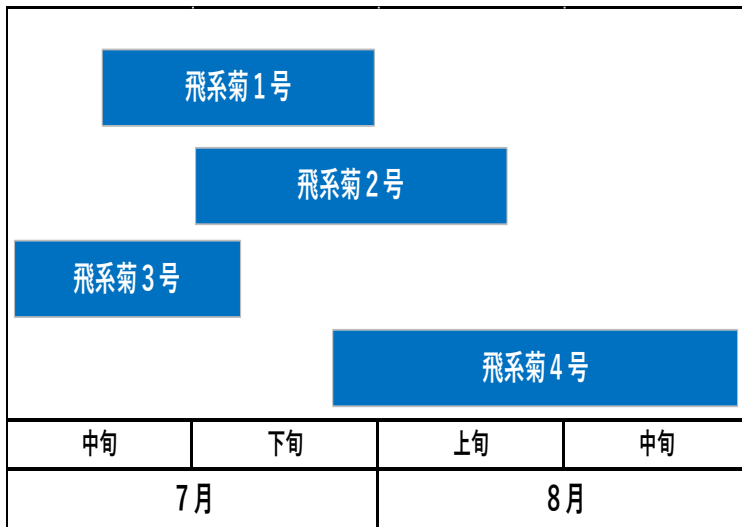


図1 飛系菊1～4号を組み合わせた収穫期

研究課題名：「飛驒黄金」の長期安定出荷体系の確立（平成29年度～令和元年度）

研究担当者：西村歩、田中良憲